

全校朝会（屋上の池と鳥）

2020. 4. 23

6年生に、「1年生と一緒にしたいこと、1年生にしてあげたいこと」を聞きました。

土曜日に屋上の池に金魚とメダカを放しました。校長室の洗面器の中で飼っていた金魚とメダカなのですが、だんだん大きくなってきて洗面器では窮屈になっていました。屋上の池で泳ぐ金魚たちは、とても気持ちがよさそうでした。でも、せっかく広くなったのに、今までずっと一緒にいたからでしょうか。メダカがいつまでも金魚の後をくっついて泳いでいる様子がかわいらしかったです。

池の隣には、木や花が植えてあるのですが、今、とてもきれいなのが、ツルニチニチソウです。薄紫色の5枚のプロペラのような花びらの、エジプトやヨーロッパから伝わってきた花です。ヨーロッパでは、このツルニチニチソウを身に付けていると幸福になると言われているそうです。どうしてかと言うと、ツルニチニチソウが、冬になっても枯れず緑色の葉を付けているので、ずっと元気でいられると考えられているからだそうです。花言葉は「楽しい思い出」「友情」などです。是非、一度見てみてください。

ツルニチニチソウの間の枯れてしまっている草などを取っていたら、チュリチュリチュリチュリ…というきれいな鳥の声がありました。カワラヒワという鳥の鳴き声でした。スズメの仲間です。カワラヒワは、川のそばで見られるそうです。神田川のそばだからやってきたのでしょうか。屋上の池がきれいになったから水を飲みに来る鳥も増えるといいなと思います。ところで、鳥の鳴き方には「さえずり」と「地鳴き」の2種類があるということを知っていましたか。「さえずり」は、オスが「お嫁さん、募集中です」とメスを呼ぶ時や、「ここは、僕の縄張りだから入らないでください」という宣言をする時の声です。「地鳴き」は、仲間との連絡用で、「気を付けろ」とか「元気か」とか「ここにいます」とか「きてください」などの意味があって、それぞれに鳴き方が違うと言われています。いろいろな鳥の「さえずり」と「地鳴き」について調べてみたいと思いました。

そういえば、この間、体育館の中に鳥が入ってしまって困る・・・と言われました。確かに困ることもあるでしょう。怖いし気になるし……。でも、鳥が家や建物の中に入ってくることは、「とりいる」ということばにつながり、物事が万事うまくいくといった意味で縁起が良いとされています。追い出してしまったら、幸福が逃げてしまいそうだなと困っています。